



(左：ミサゴ) 2羽が上空をあっという間に飛ってしまいました。雑木林からはツグミの声がよく聞こえ、枝先に何羽もとまっているのを見ました。風もなく穏やかな日になり、子どもたちは長靴で水に入って生きものを探索しました。



(ツグミ 6羽)



ミサゴ

魚を捕まえるので魚鷹とも呼ばれます。鼻孔にはふたがあり2本の鋭いかぎ爪を備えた足を前後に構えて水面近くにいる魚を捕らえます。



ナミスジフユナミシャク

運動公園で見かけるときは壁にいたことが多い蛾ですが、今日はイロハモミジの樹皮にいました。11月～1月にかけてよく見られます。



ミツボシキリガ

フユシャクだけではなくキリガなども冬によく見られる蛾で、この蛾の幼虫はエノキの葉を食べます。前翅に3つの斑紋があります。



ナミスジフユナミシャク雌

フユシャクの雌は上のように翅が短いのので飛べません。羽化してここまで歩いてきたのです。オスが雌が出す匂いを頼りに探します。初めの記録では、メスコバネマルハキバガとしていた蛾です。観察会ではフユシャクの雌としていたのですが、帰宅してネットで調べたらメスコバネの翅のようすにそっくりだったので訂正しました。



ヤマトクサカゲロウ

昨日までの暖かさで越冬していたクサカゲロウです。幼虫は肉食でアブラムシやハダニ、コナジラミなどを食べ、成虫は花粉や蜜などを食べます。頭部や顔の斑紋で見分けます。



ツルグミ

秋から冬にかけて花が咲き、花の下についている子房がふくらんできました。



4月頃赤く熟して甘みが出ます。



オオムラサキツツジのさや

植栽のツツジは次の年の花芽の付きをよくするために早めに剪定してしまうので実を見ることは希です。これは運良く結実したものです。



ヤママユの卵

コナラの枝に8個見つかりました。柔らかい新芽を食われるように冬芽のすぐ下に産み付けられています。雌は2～300個の卵を何十回かに分けて産むのです。



サクラバハンノキの冬芽

左は雄花で早々と熟して開いていました。指ではじくと黄色い花粉が飛んでいきました。右は葉で、まだ開いていません。表面は樹脂で保護されています。



イタチハギ

上方が冬芽で下の葉痕の上にあるのが副芽です。枝をぐるりと見渡すと芽が1カ所のみものがありました。左は実です。これまで気づかなかった表面のつぶつぶが特徴的です。



水路の生きもの



上：ホトケドジョウ
(田んぼのとは模様が違う)
下：ヤマサナエのヤゴ
(棒状の触角がある)



オオジュリン

ホオジロに似た小鳥が枝に止まりすぐ飛んでいきました。図鑑で調べるとオオジュリンの雌のようです。(地鳴きはチュリーン)

